

科目名	成人看護学特論Ⅱ			分野・必選別・ 単位数	専門科目 (成人看護学)	選択必修	2単位
担当教員	◎教授 南川雅子					科目ナンバー	T2C205
課程	博士後期	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義
授業の概要	成人各期にある様々な健康レベルの人々の療養上の課題に対応している国内外の研究論文を諸側面から捉え、看護ケアの発展性、可能性について検討し、研究的知見を深める。 療養上必要な専門知識と看護技法を看護学として体系化し、健康上の課題の解決とケアの展開能力を発展させることを目的とする。						
授業の到達目標	成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討できる。						
授業計画	回数	担当者			行動目標		
	1	南川 雅子	教授	科目概説 本科目の概要を説明できる。			
	2	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
	3	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
	4	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
	5	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
	6	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
	7	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
	8	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
	9	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
	10	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
	11	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
	12	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
	13	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
	14	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
	15	南川 雅子	教授	健康上の課題の解決とケアの展開 成人看護学特論Ⅰで体系化した看護開発技法を踏まえ、実証的な研究方法について検討するために演習を行う。			
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 今回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	必要に応じて適宜提示する。						
参考書	必要に応じて適宜提示する。						
成績評価の方法および基準	演習で必要な資料の作成30%、課題レポート70%の達成度により評価する。						
その他履修上の注意事項	演習日程は、話し合いの上で決定する。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						

科目名	成人看護学特論Ⅱ			分野・必選別・単位数	専門科目 (成人看護学)	選択必修	2単位
担当教員	◎教授 林さとみ 准教授 古屋洋子					科目ナンバー	T2C205
課程	博士後期	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義
授業の概要	現代の社会環境・医療における成人各期にある人々とその家族のニーズ、看護上の課題やその解決に向けた既存の知見について、実践、管理、研究、教育の視点から検討・評価する。 実践、管理、研究、教育の視点から検討した成人各期にある人々とその家族のニーズ、看護上の課題やその解決に向けた既存の知見の評価に基づき、看護学の発展、看護実践への活用を促進する知見の創生へ貢献しうる研究テーマを明確にし、研究目的、研究方法を検討する。						
授業の到達目標	①実践、管理、研究、教育の視点から検討した成人各期にある人々とその家族のニーズ、看護上の課題やその解決に向けた既存の知見について評価できる。 ②看護学の発展、看護実践への活用を促進する知見の現状を明らかにし、知見の創生をめざす具体的な研究課題、目的、対象者、方法について検討できる。						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	科目概説から本科目の概要を明確にし、学習計画を立案できる。			
	2	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	現代の社会環境・医療における成人各期にある人々とその家族のニーズ、看護上の課題やその解決に向けた既存の知見を明確にする。			
	3	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	現代の社会環境・医療における成人各期にある人々とその家族のニーズ、看護上の課題やその解決に向けた既存の知見について検討する。①実践の視点から			
	4	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	現代の社会環境・医療における成人各期にある人々とその家族のニーズ、看護上の課題やその解決に向けた既存の知見について検討する。①実践の視点から			
	5	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	現代の社会環境・医療における成人各期にある人々とその家族のニーズ、看護上の課題やその解決に向けた既存の知見について検討する。②管理の視点から			
	6	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	現代の社会環境・医療における成人各期にある人々とその家族のニーズ、看護上の課題やその解決に向けた既存の知見について検討する。②管理の視点から			
	7	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	現代の社会環境・医療における成人各期にある人々とその家族のニーズ、看護上の課題やその解決に向けた既存の知見について検討する。③研究の視点から			
	8	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	現代の社会環境・医療における成人各期にある人々とその家族のニーズ、看護上の課題やその解決に向けた既存の知見について検討する。③研究の視点から			
	9	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	現代の社会環境・医療における成人各期にある人々とその家族のニーズ、看護上の課題やその解決に向けた既存の知見について検討する。④教育の視点から			
	10	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	現代の社会環境・医療における成人各期にある人々とその家族のニーズ、看護上の課題やその解決に向けた既存の知見について検討する。④教育の視点から			
	11	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	既存の知見の評価に基づき、看護学の発展、看護実践への活用を促進する知見の創生へ貢献しうる研究テーマを明確にできる。			
	12	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	既存の知見の評価に基づき、看護学の発展、看護実践への活用を促進する知見の創生へ貢献しうる研究テーマを明確にできる。			
	13	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	既存の知見の評価に基づき、具体的な研究目的、研究方法を検討できる。			
	14	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	具体的な研究課題、目的、対象者、方法の妥当性、倫理性を評価する。			
15	林さとみ 古屋洋子	教授 准教授	検討結果のまとめ・発表				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書・文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	必要に応じて適宜提示する。						
参考書	必要に応じて適宜提示する。						
成績評価の方法および基準	プレゼンテーション25%、討論への参加状況と内容25%、課題レポート50%により評価する。						
その他履修上の注意事項	演習日程は、話し合いの上で決定する。 課題やレポート等に対し、講義の中で解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						